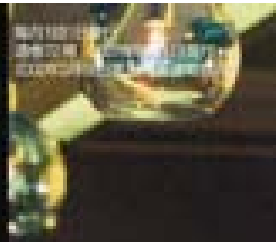


日経 おとなの

OFF



2007
SEPTEMBER

9

冷酒と燗酒、麦焼酎、国産ワイン

この夏、

一番旨い酒

日本の夏酒
厳選50

江戸前寿司、涼をとる、しぐさ、浮世絵...
江戸に学ぶ和の知恵

320km/hの世界最速鉄道
仏「TGV東線」でアルザスへ

定価680円
日経ホーム出版社



写真上は、右から発泡性の「ふわり幹酔」(500ml/1200円)、「純米にこり酒 川中島」(720ml/1150円)、「幻舞 吟醸」(720ml/1400円)、「幻舞 純米吟醸」(720ml/1500円)、「幻舞 特別純米 山田錦」(720ml/1200円)。この8月から東京・台場にある温泉施設「大江戸温泉物語」でオリジナル純米酒を発売。

長野県で最古の蔵を受け継ぐ 初プロデュース「幻舞」も評判 杜氏 千野麻里子

酒千蔵野
長野●川中島



酒千蔵野
長野市川中島町今井368-1
☎026・284・4062
<http://www.shusen.jp>



ちのまりこ 1967年生まれ。東京農業大学農学部卒。2000年より杜氏として酒造りに携わる。8月11～15日、大江戸温泉物語でのPRに杜氏も参加。

創業1540年。武田と上杉両軍が戦った、あの川中島の合戦場のすぐ近くにある、古い酒蔵である。看板銘柄はにこり酒で、その名も「川中島」。もちろん地元で広く親しまれており、蔵一番の出荷量を誇る。

一方、都市部の酒好きを中心に評判を集めているのが「幻舞」。現在、杜氏を務める千野麻里子さんが初めて手掛けた新たな銘柄で、米の味わいがしっかり楽しめる酒だ。仕事はもっぱら前任の杜氏から学んだ。

しかし酒造りは、強い結束力で結ばれた杜氏と蔵人たちのチームワークでこなすもの。もちろん男ばかりの集団だ。蔵元の娘といえども、そうは簡単にその輪の中に入るものではない。「母も祖母も造りの場には足を踏み入れませんでしたから」。

杜氏がいちいち蔵人に仕事の指示をするわけではない。コミュニケーションがうまくとれず、現場にいても酒造りに加われない術がゆい日々が続いた。

機会をうかがっていたある日、「切り返し」の作業をしている蔵人の輪の中に、思い切った自分も飛び込んだ。ほかの蔵人と一緒になってひたすら麹をほぐす。杜氏はただ黙って、それを見ていたという。

そうこうしている間に麻里子さんは蔵人の一人として、男ばかりの輪の中に溶け込んでいった。やがて造り手としての頭角を現し、独自のセンスで「幻舞」をプロデュースする日へとつながっていく。

杜氏を受け継いで今年で7年。一番思い入れのある銘柄は何かという問いに、「すべてがそうです」と言う表情はまさしく、酒造りの全責任を担う人物のそれであった。